

港湾振興便り



2021. 6

第169号

目次

1 ポートエッセイ — 都市のにぎわい創出を港から —
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 釧路 港文館倶楽部が土木学会北海道支部地域活動賞を受賞！
(北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所)
- 講演会「脱炭素社会のフロントランナーを目指して」を開催
(東北地方整備局 秋田港湾事務所)
- 新規外貿コンテナ航路(韓国・釜山港)が就航
敦賀港に初入港しました！
(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)
- 「第72回東京みなと祭」がオンラインで開催されました！
(東京都 港湾局)
- 「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」が登録されました
(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

3 お知らせ

◇イベント名 : 深日洲本ライナーの運航開始

1 ポートエッセイ — 都市のにぎわい創出を港から —
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

新潟県と新潟市では、新潟西港内の万代島地区において、2003年にオープンした複合一体型コンベンション施設「朱鷺メッセ」を管理運営する「新潟万代島総合企画株式会社」について、県と市で保有する全株式を売却し、民間主導による経営に転換することとした。民間のノウハウを最大限発揮し、朱鷺メッセを中心とした万代島地区のさらなるにぎわい創出を目指している。

万代島地区は信濃川河口部の新潟西港内に位置し、佐渡航路や漁港区を含む新潟西港の「交流・にぎわい」の中心であるとともに、新潟市の都心エリア「にいがた2km」に位置する優れた立地特性を有している。朱鷺メッセでは、サミットやAPECといった国際会議のほか、「にいがた酒の陣」に代表される大規模イベント、コンサートなど様々な交流、にぎわい創出の場として活用されているほか、今月からは新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場としても利用している。

また、県と市では2007年に新潟魚市場が郊外に移転したことを契機に、市場跡地のにぎわい空間創造に着手、2010年に市民市場「ピアBandai」を開設。さらに、蒲鉾のような外観から「大かま(おおかま)」



ミズベリング事業での文館前で
開催された市民講座



釧路港に関する資料の展示

港文館は、明治41年に建造された旧釧路新聞社社屋の一部を港湾管理者(釧路市)が復元したもので、当時東北海道唯一のレンガ造りの洋風建築物として建てられたものです。港文館倶楽部はその指定管理者となっております。

2階は釧路ゆかりの歌人石川啄木の資料館、1階はカフェや釧路港関連施設「港湾休憩所」を併設。周辺は釧路川を中心に幣舞橋、釧路フィッシャーマンズワーフMOO&EGGなどがあります。是非一度、ご探訪を！

石川啄木のラテアート
も楽しめますよ。。



釧路市大町 2-1-12 (幣舞橋から徒歩 5 分)
港文館ホームページ

<https://kushiro-kobunkan.jimdofree.com/>

●講演会「脱炭素社会のフロントランナーを目指して」を開催

(東北地方整備局 秋田港湾事務所)

【開催日時】令和3年6月4日(金) 15:30~17:00

【場 所】秋田県能代市 プラザ都

【概 要】秋田県の日本海沿岸北部に位置する能代港は、昨年9月に全国で初めて洋上風力発電の基地港湾として指定され、そのための施設整備が着々と進められているところです。

日本海沿岸北部は、洋上風力発電に適した海域であることから、2050年カーボンニュートラルの目標達成に向けて、多くの洋上風車建設計画が持ち上がっています。今後、能代港が洋上風車の建設や保守管理の拠点として活用されることが見込まれることから、こうした好機を地域にとっての大きなチャンスと捉え、地域の発展につなげていくための取り組みが求められています。

そこで、関係者のみならず市民一人ひとりが理解を深め、地域が一体となって脱炭素社会へのフロントランナーとなることを目指して、能代港洋上風力発電拠点化期成同盟会、能代港湾振興会及び能代市が主催し、行政関係者や学識経験者を招いた講演会「脱炭素社会のフロントランナーを目指して」が開催されました。

はじめに齊藤滋宣能代市長からの主催者挨拶、続いて金田勝年衆議院議員、高田昌行港湾局長から来賓挨拶がありました。齊藤市長からは「基地港湾として能代港大森地区はふ頭用地の拡張、地耐力の強化や浚渫工事等、国・県合わせて港湾整備が行われ、これから益々能代港の重要性が高まるものと期待している」との発言がありました。

続いて、国土交通省港湾局の松良精三海洋・環境課長、秋田県産業労働部の齋藤篤新エネルギー政策統括監、長崎県五島市産業振興部再生可能エネルギー推進室再生可能エネルギー推進班の築脇太地係長、秋田大学理工学部の浜岡秀勝教授の4名の講師が、それぞれの視点から講演を行いました。

松良課長からは洋上風力発電の導入促進等に向けた国土交通省の取り組み、浜岡教授からは「発電した電力が他地域で消費されるだけではチャンスを逃している。発電した電気を地元でフルに使うエ

エネルギーの地産地消が重要であり、産業・教育・防災・交通・観光などの様々な観点から協働の可能性を探り、地元の発電拠点を活かすべきではないか。」といった話が聞かれました。

洋上風力発電設備の導入拡大がこの地域の経済に大きな影響を与えるもので、地域が一体となって取り組んでいくことが重要であるとの認識が深まる講演会になりました。



講演会場の様子

●新規外貿コンテナ航路(韓国・釜山港)が就航
敦賀港に初入港しました！

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

敦賀港と韓国・釜山港を結ぶ外貿コンテナ航路が新たに就航し、令和3年5月24日(月)に、高麗海運(KMTC)のコンテナ船「SUNNY LINDEN」が敦賀港に初入港しました。初入港を祝い、福井県主催の歓迎セレモニーが開催されました。

敦賀港の取扱い貨物量は、太宗荷主の海外工場建設等で年々伸び悩み、外貿コンテナ航路は、昨年週3便から1便にまで減少しました。このため、福井県は船会社や荷主企業への支援策を打ち出しました。結果、今回の就航に繋がり、長錦商船の韓国航路と合わせて週2便に拡大しました。

主な輸出品は、液晶パネル、化学品、フィルム、輸入品は、化学薬品、梱包材などが想定され、一度の寄港で100TEUが見込まれています。日本海側の利用は、県内や近郊の企業や工場などが想定されています。

新規航路により取扱い貨物量の増加が、期待されます。



敦賀港に初入港した SUNNY LINDEN



歓迎セレモニーの様子

●「第72回東京みなと祭」がオンラインで開催されました！

(東京都 港湾局)

4月15日(木)から6月15日(火)の期間、特設Webサイトを開設し、「第72回東京みなと祭」が初めてオンラインで開催されました。

「東京みなと祭」は都民をはじめとする多くの皆様に、東京港の役割やその必要性を理解していただくために、毎年東京港の開港記念日である5月20日前後に開催しておりますが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、オンラインで開催する運びとなりました。

東京港は昭和16年5月20日に開港し、今年開港80周年を迎えました。これを記念し、特設Webサイトでは東京港の歴史を振り返るコンテンツや、普段は見ることのできない東京港で活躍する船の内部を、写真や動画を通じて見ることができるコンテンツを開設する等、東京港をより深く知っていただく機会を設けました。さらにレストラン船のチケットやオリジナルグッズが抽選であたるプレゼント企画も実施し、ご好評をいただきました。



第72回東京みなと祭 トップ画像

●「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」が登録されました

(近畿地方整備局 港湾空港部 港湾計画課)

令和3年4月30日(金)に「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」(京都市伏見区)として、伏見港が「みなとオアシス」に登録されました。今回の登録で近畿地方整備局管内(福井県除く)では15箇所目(全国では148箇所目)の「みなとオアシス」となります。

伏見港は1594年に豊臣秀吉により河川港として整備されたのが始まりとされ、以来、江戸時代から昭和の前半に至るまで京都と大阪を結ぶ河川水運の要所として発展し、数々の歴史の舞台に登場しています。

今回登録された「川のみなとオアシス 水のまち 京都・伏見」の代表施設である「伏見夢百衆(ふしみゆめひゃくしゅう)」は大正8年建造の月桂冠日本社を改装したもので、伏見港に関する情報発信を行っているほか喫茶スペースもあり、歴史あふれる街並みのなかでゆったりと過ごすことができます。

構成施設としては、「黄桜記念館」・「月桂冠大倉記念館」・坂本龍馬ゆかりの「寺田屋」・水位の異なる川を結び船のエレベーターのような役割をする「三栖閘門」などがあり、豊富で良質な地下水に恵まれた「酒どころ・伏見」の伝統と技、その他様々な文化を感じることができる空間となっています。

